
吸血種物語

ぬながわ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

吸血種物語

【Nコード】

N6648S

【作者名】

ぬながわ

【あらすじ】

とある血筋に数百年の感覚で生まれてしまうという“吸血種：吸血鬼。”その血が流れる十羽修は、たまたまその血に目覚めてしまう。日常生活において吸血衝動は無視できるレベル（水が飲みたい程度）だが、新月となる夜にはその幾倍もの吸血衝動が起こり、下手をすると自我を見失い不特定多数の人間を襲ってしまいかねない。

それを防ぐ方法としては、輸血用血液の摂取、それがなければトマ

トジュースでもそれはおさまるが、輸血用血液が一番効果的である。高校生活も中盤に差し掛かった高一の夏休み前、季節外れの転校生がやってきた。

その少女の名は“藤村 葵”、見た目は美少女。でも、実際は……？

喉が、乾く…

水分補給のためじゃない、普通の“喉が渴いた”という表現とは、また違った乾き

(…：…天気予報に書いてあつたじゃないか…：…)

本来夜空を照らすはずの月は、光らない向きを地球に向けていて…
…この付近には街灯というものが少ないので、ほぼ完全に闇夜になつている。

(… どれだけ俺の精神力が持つ、か…)

尋常ではない喉の渴きのせいで、意識を保つのがやっと…：…という体に鞭を打って少しずつ歩みを進める。

「 … なんだ、せつかく来てみたのに、何をやっているの？ “吸血種”さん」

「…!?!」

はるか向こうにあるポツンと佇む街灯に照らされている場所に、ほんやりとしか見えないが、声から察するに女の子が立っている。

(ダメだ、ここにいちや、危ない……ん？あの子……今……？)

俺の事を、“吸血種”って言ったか……？

「 君の能力は、こんなやわじゃないんだよ……今度会ったら、君の本気を見せてね……」

そう言い残して、女の子が俺の視界から消えてしまった。

(後書き)

* *

自分自身、どうやって自宅に戻ったのか記憶がない。

ただ、気が付いていたら自室のフローリングの上に雑魚寝していた。

(……なにが…?)

状況確認をしようと上体を起こした時

ピン、ポーン……

… 来客を告げるインターホンが鳴った。

「修くん、おはよー！」

… 美羽か? …… つて、ちょっと待てよ… 美羽が来るってことは、もう… 朝なのか?!

…
…

2分で着替えて玄関へ向かうと、セーラー服に身を包んだ幼馴染、小鳥遊美羽が鞆を手に立っていた。

「悪い、美羽…」

「ううん、大丈夫だよ

はい、お弁当」

そう言って美羽は鞆から弁当箱を取り出して手渡してきた。

「サンキュ」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6648s/>

吸血種物語

2011年6月17日17時10分発行